# Sustainable Bond Newsletter

サステナブルボンドニュースレター

2023年12月 第9号

### 目次

- アフリカが抱える課題に対する サステナブルな解決方法
- 最近のハイライト
- アフリカの食糧主権とレジ リエンスの確保 3
- サヘルにおける地域の電力 脆弱地域からレジリエンス のある地域への変革
- <u>統合セーフガードシステムの</u> アップデート
- 新サステナブルボンド枠組み
- <del>リステナブルハイブリッド</del> ゚゚タル・新しいアセッ
- サステナブルプロジェクト・ ポートフォリオ
- 9 サステナブルな債券発行
- 10 サステナブルな債券配分
- <u>変革をもたらすサステイ</u> ブルプロジェクト
- 15 インパクトレポート
- 透明性と開発成果

※本ニュースレターの日本語版は、読者への便宜を図る目的で正文の英語版より和訳しています。

### アフリカが抱える課題に対するサステナブ ルな解決方法

グローバル規模のヘルスの課題や地政学的紛争に直面している中、気候変動はアフリ カにとって依然として喫緊の課題であり、何百万もの人々の生活を脅かしています。 アフリカの二酸化炭素排出量の割合はわずか 3% 以下にもかかわらず、気候変動に よって引き起こされる壊滅的な影響を受けています1。アフリカは気候変動の影響によ り1986 ~2015 年にかけて 1 人当たり GDP 成長率の 5% ~15% を失いました2。また、 過去 2 年間で131件の洪水や、嵐、干ばつ、山火事等の異常気象災害が発生し、5,400 万人以上が甚大な被害を受けました3。

一方、2022年のアフリカのGDP成長率は3.8%と世界平均の3.4%を上回っており、 2023年には4%、2024年は4.3%になると予想されています。

アフリカ開発銀行(AfDB)はアフリカに特化した開発金融機関として、アフリカ・グ <u>リーン・インフラストラクチャー同盟 (AGIA)</u>、 <u>気候アクションウィンドウ (CAW) イ</u> <u>ニシアティブ</u>や <u>サステナブルハイブリッドキャピタル</u>といった 環境・社会・ガバナン ス(ESG)ファイナンスを促す先駆的な金融商品を通じ、レジリエントで豊かなアフ リカの実現に向けて重要な役割を果たしてきました。

このニュースレターでは、グリーンボンド及びソーシャルボンドに関するAfDBの最近 の活動(配分やインパクトレポートなど)について紹介しております。また、アフリ カ全体におけるAfDBの戦略的取組みや新しいサステナブルボンド枠組みや統合セーフ <u>ガードシステム (ISS)</u>についても焦点を当てております。

- $\label{lem:https://iea.blob.core.windows.net/assets/220b2862-33a6-47bd-81e9-00e586f4d384/AfricaEnergyOutlook2022.pdf \\ https://www.afdb.org/en/documents/african-economic-outlook-2022 \\ \underline{https://gca.org/wp-content/uploads/2023/01/GCA\_State-and-Trends-in-Adaptation-2022\_Climate-Risks-in-Africa.pdf} \\ \underline{African Grant Grant$



2023年12月 第9号



#### 新サステナブルボンド枠組み

AfDBは ESG 債券市場の先駆者であり、国際資本市場協会 (ICMA) のグリーンボンド原則が策定される前の 2013 年にグリーンボンド 枠組みを立ち上げています。また、2017年にソーシャルボンド原 則の策定と同年にソーシャルボンド枠組みを立ち上げました。 2023年には、両枠組みを統合したサステナブルボンド枠組みを立ち上げました(詳細は6ページを参照)。

#### サステナブルハイブリッドキャピタルで新境地開拓

国際開発金融機関(MDB)が環境や社会課題に対応するための取り組みを拡大する中、AfDBは新たな資本手段の活用に目を向けました。2023年9月、AfDBは初の公募形式によるハイブリッドキャピタル債のロードショーを2週間実施しました。130以上の投資家との商談を行い、強い反響がありましたが、不透明な世界経済状況により、実行は2024年に延期されました。

#### AfDB、グリーンボンドで資金調達開始

2023年1月、AfDBはスウェーデン市場で今年初のグリーンボンド、2028年1月満期の5年の15億スウェーデンクローナ (SEK) の債券を発行しました。この債券はAfDBが発行した8本目のSEKのグリーンボンドとなります。10月には2本目のSEK債券として、北欧の投資機関1社が投資した10億SEKの4年グリーンボンドを発行しました。

#### 英ポンド市場で初のESG債発行

2023年7月、2025年8月償還の2年の3億英ポンドのソーシャルベン <u>チマーク債</u>を発行し、ポンド市場へ復帰しました。本債券はAfDB にとって2022年1月以来の英ポンド(GBP)のベンチマーク債の 発行です。英ポンドは、ユーロ(EUR)、ノルウェークローネ (NOK)、米ドル(USD)、スウェーデンクローナ(SEK)、豪 ドル(AUD)での発行に続き、AfDBのソーシャルボンドプログラ ムで6番目の通貨です。

#### グリーンカンガル一市場に復帰

2023年2月、AfDBはオーストラリア市場で2本目のグリーンボンドである2038年3月償還の15年の5,000万豪ドルのグリーンカンガルー債を発行しました。本債券は日本の投資家1社が投資し、7月にさらに2,500万豪ドル、9月には7,500万豪ドルが増額され、発行残高は1億5,000万豪ドルとなりました。このグリーンボンドは、2016年に発行された2031年12月償還の15年1億4,000万豪ドルの初のグリーンカンガルー債に続くもので、AfDBのカンガルーカーブは再び15年延長されました。

#### 初のノルウェー クローネ グリーン ボンド

2023年3月、AfDBはノルウェー市場で初のグリーンボンドとなる 2028年3月償還の5年の10億ノルウェークローネのグリーンボンドを発行しました。その後、追加で10億NOKが増額され、発行残高は20億NOKとなりました。これは、2019年と2021年に発行された3つのNOKのソーシャルボンドに続くもので、AfDBは北欧市場における投資活動を拡大しています。

#### ESG市場のトッププレイヤーとして評価される

2022年に初の南アフリカ市場で、2023年9月償還の1年の2億南アフリカランド(ZAR)のグリーンボンドを発行し、2023年のボンドアワード「グリーンボンド・オブ・ザ・イヤー国際機関債」を受賞しました。本債券は、アフリカにおけるグリーンファイナンスの支援を目的として私募形式で発行され、日本の機関投資家(ソニー銀行)が投資しました。

また、2022 年の優れたパフォーマンスとランドマーク的な取引が評価されEMEA Finance から 5 つの賞を受賞しました。2029年9月償還の7年の12億5,000万ユーロのソーシャルボンドが「ベスト・ソーシャルボンド」、2032年10月償還の10年の1億5,500万豪ドルソーシャル・カンガルー債が「ベスト・カンガルーボンド」、15億スウェーデンクローナの5年グリーンボンド取引がベスト・スウェーデン・クローネ債を受賞しました。

#### 気候変動に対するレジリエンスを強化するための極めて重要 な手段である気候アクションウィンドウ

気候変動対策へのファイナンスを強化するため、アフリカ開発基金(ADF)とパートナー機関は、2023-2025年に総額89億米ドルの融資パッケージにコミットしました。このうち、4億2,900万米ドルが気候アクションウィンドウ(CAW)イニシアティブのシードマネーとして割り当てられました。CAWは、民間セクター等との協調融資により最大130億米ドルを動員し、気候変動の影響を最も受けている低所得国や脆弱な地域37か国に気候変動適応策のための助成金を提供します。

#### AGIA、グリーンインフラのための数十億規模の同盟

COP27において、AfDBは地域のパートナー機関と共に、アフリカにおけるグリーンインフラプロジェクトに対する資金調達の拡大・加速を支援するイニシアティブであるアフリカ・グリーン・インフラストラクチャー同盟 (AGIA) を発足しました。他の開発機関も本同盟への参加に関心を示していました。他の開発機関も本同盟への参加に関心を示したキャッシュフローによりプロジェクトのリスクを軽減することを目的としています。AGIA は初期段階のプロジェクト 開発資金を提供するため最大 5 億米ドルを調達し、バンカブルなプロジェクトのパイプライン積み上げのために活用されます。目標は 100 億米ドルの投資機会を生み出すことです。資金は、同盟メンバーとの協調融資、ブレンデッドファイナンス等の組み合わせから動員されます。

#### 第2回アフリカ・フード・サミット・ダカール

2015年に開催された第1回のサミットに続き、AfDBは2023年1月にDakar 2 Summitを開催しました。サミットでは政府、民間セクター、多国籍国際機関、NGO、専門家等が参加し、公的資金、開発パートナー、民間セクターの資金動員について議論しました(詳細は3ページを参照)。

#### ケニア、第1回アフリカ気候ウィークを開催

2023年9月、第1回アフリカ気候サミットがケニアナイロビで開催されました。本サミットはアフリカを気候変動対策の世界の議論の中心におくこと、アフリカの優先分野及び基金を考慮することへのサポートを宣言しました。また、アフリカの気候変動対策には年間1,000億ドルが必要と見込まれており、先進国に対して支援を求めました。ケニアのルト大統領は、アフリカは世界の再生可能エネルギー資産の60%を有している点、また、2100年には世界の労働力の40%を占める点を強調しました。

2023年12月 第9号



### アフリカの食糧主権とレジリエンスの確保

アフリカでは食料と栄養不足が依然として喫緊な課題であり、 世界の飢餓人口の3分の1にあたる約2億7,800万人が栄養不足 に陥っています4。国連は、栄養不足の人口が世界のどこより も急速に増加しているアフリカに焦点を当てる必要があると 指摘しています5。世界に食料を供給するためには、世界の食 糧供給システムの変革が必須です。

2050年までに世界の90億人分の食料に該当する耕作可能な土 地の65%が残っているにもかかわらず、アフリカは年間 750 億米ドルのコストをかけて 1 億トンを超える食料を輸入して います。アフリカはアフリカ自身と、世界の食料難に寄与で きる可能性を持っています。アフリカの広大なサバンナ面積 だけでも 4 億ヘクタールと推定されているが、そのうち耕作 されているのはわずか 10% です5。

アフリカの農業市場は、2030年までに年間 2,800 億米ドルか ら 1 兆米ドルに増加する可能性があります⁵。この野心的な目 標を達成するには、多くの新たな投資と障壁の撤廃が必要で す。AfDBは、農業とアグリビジネスを戦略的優先事項として おり、生産量倍増を目指す<u>アフリカ農業変革のための科学技</u> 術プログラム (TAAT) イニシアティブなど、気候変動に配慮し た方法で食料生産と農業を促進するための様々なプログラム を継続的に実施しています。実証済みの技術を2025年までに 4.000万以上の農業生産者が利用できるようにすることで、農 作物、畜産、漁業の生産性を向上させます。これにより、1億 2,000万トンの食料を生産し、1億3,000万人を貧困層から救い 出すことを目標としています。

2023年1月に第2回ダカールフィードアフリカサミットDakar 2 Summitが開催され、アフリカの農業変革を支援するための 300億米ドルの融資が発表されました。

3分の1はAfDBから、残りはパートナー機関から融資される 予定です。AfDBは、以下5 つの行動主導型の議題を掲げてサ ミットをリードしました:

- Ⅰ 生産、市場、貿易に関するハイレベルの政治的コミット メントを動員し、特定国に対する食料・農業デリバリー コンパクトを実現する
- 各国の食料安全保障を実施するために、食料・農業デリ バリーコンパクトに沿って政府、開発機関、民間セク ターからの資金を動員する
- ■食料生産と農業における成功国の事例や、農業支援をス ケールアップするためのプラットフォームの成功例の共 有する
- I 気候変動対策に適応した作物、家畜、養殖技術、アドバ イザリーサービスにより、農業生産性を2倍へ向上。気候 変動に強い農業技術の研究・開発を支援する
- Ⅰ市場と競争力のある食料と農業のバリューチェーンを構築 するため、農産業加工特区を活用し必要なインフラと物 流を整備する6



#### エチオピア - 気候変動に強い技術のおかげで小麦の輸入国から輸出国へ転換

エチオピアは、TAATイニシア ティブの導入により、2020年以 降アフリカにおける最大の小麦 生産国になりました。気候変動 の影響を受け難い種子や気候変 動に対応した農業技術を導入す ることで生産性が大幅に向上し、 農家の収入を増加させました。 その結果、エチオピアは2022年 12月時点で小麦生産の自給率 100%を達成し、生産量は1,010 万トンに達しました。2023年よ り、ケニアやジブチへの輸出を 開始しました。



2020年以降 アフリカにおける 最大の小麦生産国



2022年 小麦生産の自給 率100%



2023年 ケニアやジブチへの 輸出を開始

The state of food security and nutrition in the world 2022

新しい経済特区は、アグリビジネスの関連企業の工場新設に向けて全面的にサポートされる。



### サヘルにおける電力脆弱地域からレジリエンスのある 地域への変革

AfDBは、2030年までに、近代的で、安価かつ安定した電力に誰もがアクセスできるようになるためのエネルギーセクター開発を目標に掲げ、アフリカの公正なエネルギー転換を牽引しています。この目標を達成するため、再生可能エネルギーの発電・送電及びオフグリッドシステムへの支援を拡大しています。

砂漠に電力(Desert-to-Power (DtP)) イニシアティブは、2019年にブルキナファソのワガドゥグで開催されたG5サヘル・サミットで開始され、AfDBが主導する再生可能エネルギー及び社会経済開発のイニシアティブです<sup>7</sup>。本イニシアティブは、パートナー機関とのコンソーシアムによるサヘル地域の広範な開発プログラムの1つであり、特に民間セクターを呼び込むことに焦点を当てています。

DtPイニシアティブは、AfDBが最優先で開発を進める5分野「ハイファイブス(High 5s)」の「ライト・アップ・アンド・パワー・アフリカ(アフリカの電化)」に該当し、官で合計して太陽光発電量を10GW増加させることにより、サヘル地域の11か国に電力を供給することを目標にしています®。世界最大規模の太陽光発電地域となり、再生可能エネルギーのアクセスを増やすと同時に、新たに2億5,000万件の電力アクセス提供を目指しています。

本イニシアティブの当初の目的は、G5サヘル諸国に持続可能かつ広域なエネルギー供給を確立し、電力脆弱地域から電力レジリエンスのある地域に転換することを目的としています。2021年以来、AfDBとパートナー機関は、プロジェクトの選定と実施に向けた準備を支援するとともに、Covid-19のパンデミックや継続する社会政治的不安定化による課題への取り組みも支援してきました。



2023年11月、AfDBは2022年のDtPの<u>第3回進捗報告書</u>を発表し、現在7か国で9件のプロジェクトのポートフォリオ、国及び地域レベルで15件を超える技術支援が実施されています。

9つのプロジェクトのうち、6つは投資プロジェクトであり、 投資額は4億1,500万米ドルに達します $^9$ 。約102MWの追加的 発電容量と合計30万件近くの新規電力接続が予定されており、 計235万人以上の電力へのアクセスに貢献すると予想されて います。

2022年と2023年には、エリトリア、モーリタニア、ニジェールでさらに3つのプロジェクト<sup>10</sup>、東アフリカで1つの技術支援プログラム、総額7億2,000万米ドルの<u>サヘルG5砂漠発電融資ファシリティ(GCF)</u>を承認しました。本ファシリティーは、500MWの再生可能エネルギーの発電容量を導入するための約10億米ドルを動員すると予想されており、そのうち3億8,000万米ドルはAfDBの資金によるものです。

#### 11ケ国が裨益

ブルキナファソ、チャド、エチオピア、エリトリア、ジブチ、マリ、モーリタニア、ニジェール、ナイジェリア、セネガル及びスーダン



#### 大規模な電化の加速

10 GW の新設された太陽光 発電容量



<sup>7</sup> G5サヘルはブルキナファソ、チャド、マリ、モーリタニア、ニジェールで構成

<sup>8</sup> ブルキナファソ、チャド、ジブチ、エリトリア、エチオピア、マリ、モーリタニア、ニジェール、ナイジェリア、セネガル、スーダン

<sup>9</sup> ブルキナファソ: 3件 (Yeleen On-grid、Yeleeno Off-grid、Electrification and Power Connection Development Project)、チャド: 2件 (Djermaya PV Solar Plant、Electricity Sector Support Project) スーダン: 1件 (Solar PV Powered Pumping Systems Project)

<sup>10</sup> エリトリア: Dekemhare(2023年3月承認)、モーリタニア:Green Mini-Grid Electrification Project (2023年11月承認)、ニジェール: Project for the Development of Solar Power Plants and Improvement of Access to Electricity (2022年12月承認)



### 統合セーフガードシステムのアップデート

2023年4月、AfDBは統合セーフガードシステム (ISS) の更新を承認しました。2013年に初めて採用されたISSにより、AfDBの戦略的目標をより持続的かつ総合的に達成できるようなりました。ISSは、AfDBの全ての業務に環境・社会のリスクと影響を組み込むことで、準備、審査、承認プロセスにおけるセーフガードのアプローチを主流化し、AfDBが支援する業務の持続可能性と長期的な発展を促進することを目指しています。AfDBは、サステナブルボンドのポートフォリオだけでなく、全てのAfDBの業務に環境・社会の影響を統合することを目指しています。

ISSにはリスクと影響の体系的な評価が含まれており、公的及び民間部門の業務が各国の環境要件とともに運用上のオペレーショナル・セーフガードを遵守していることを表しています。これには、環境、気候変動、社会的リスクと影響をプロジェクト期間のできるだけ早い段階で評価すること、プロジェクト実施中に合意された環境・社会管理措置の効果的なモニタリング、監査を行うこと等が含まれています。

更新版のISSには、これまでのISSの教訓が組み込まれており、脆弱国や紛争の影響下にある国々の要素や、プロジェクト期間中の環境・社会のリスクに対処するための、リスクベース・アプローチが含まれます。

新ISS は、2019年に実施した旧ISS の5年間の運用の評価結果を踏まえたものです。AfDBの理事会は2019年末に旧ISSの評価結果を承認し、他の開発金融機関との整合性を保ちつつ、ISS更新のプロセスを開始しました。

AfDBと借入人の責任分担に関して、新しい ISS は以下のように定めています。

- I AfDBの環境社会配慮ガイドラインの基準を満たすこと
- 借入人のプロジェクト、活動、取組に対するAfDBの環境社会配慮ガイドラインの要件について、より明確な方向性を示す
- Ⅰ 持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けて、域内加盟国(RMCs)との連携を強化する
- Ⅰ 域内加盟国と借入人によるセーフガードシステム及び環境・社会リスクの管理能力強化を支援する



African Development Bank Group's Integrated Safeguards System









### 新サステナブルボンド枠組み

AfDBは、ICMAグリーンボンド原則が策定される前の2013年にグリーンボンド枠組みを立ち上げて以来、10年間にわたりグリーンボンドを発行してきました。その後、2017年にICMAソーシャルボンド原則が策定されたことを受けて、ソーシャルボンド枠組みを立ち上げました。AfDBは16本のグリーンボンド、11本のソーシャルボンドを発行し、合計110億米ドル相当の債券を発行しました。

High 5s の最優先分野や、 気候とグリーン成長戦略 2021-2030 等に例示されているように、AfDBの全ての業務にサステナブルな要素は含まれているが、グリーンボンド枠組みとソーシャルボンド枠組みを最新の枠組みにすることが重要だと考えました。

グリーンボンドとソーシャルボンド枠組みのテーマである気候変動、ジェンダー、脆弱性、ガバナンスといった分野はAfDBの業務において横断的な分野である点を反映し、AfDBは2つの枠組みを包括的に1つに纏めたサステナブルボンド枠組みを立ち上げました。新しい枠組みにより、グリーンボンド、ソーシャルボンド、サステナビリティボンド、サステナブル・ハイブリッド・キャピタルボンドの発行が可能になります。

環境に重点を置いた投資は、プロジェクトのカテゴリーを拡張し、ICMAのカテゴリーに合わせて以下が含まれるようになりました:

- Ⅰ 再生可能エネルギー
- Ⅰ 持続可能なモビリティ
- Ⅰエネルギー効率
- Ⅰ 生物自然資源と土地利用に係る環境持続型管理
- Ⅰ 持続可能な水資源と廃水管理

既存の枠組みよりさらに詳細なカテゴリーを追加し、対象となるグリーン及びソーシャルのカテゴリーと環境基準値、潜在的な開発効果の指標をより詳細に規定しました。

社会的支出については、以下のカテゴリーが含まれます:

- Ⅰ ベーシックインフラ
- エッセンシャルサービスへのアクセス
- Ⅰ 食料安全保障と持続可能な食料システム
- Ⅰ 社会経済的危機に起因する失業の防止・緩和を目的とした雇用創出・プログラム
- Ⅰ 社会経済向上とエンパワーメント

環境と同様に、新しいサステナブルボンド枠組みでは、投資対象のプロジェクト、対象者、High 5sとの整合性等について詳細な項目が追加されています。AfDBは、2015年にSDGsの17項目すべてに署名しています。

ムーディーズ・インベスターズ・サービシズは、サステナブルボンド枠組みのセカンドパーティオピニオンとして、SQS2のサステナビリティ・クオリティ・スコア(非常に高い)を付与しています。また、AfDBは、割当とインパクトレポートに関して外部機関による評価を受けることとしており、2024年のニュースレターに合わせて第1回目の評価が予定されています。





### サステナブルハイブリッドキャピタル・新しいアセットの発足

グローバル規模の課題が特にアフリカの発展と開発を脅かす中、国際開発金融機関(MDBs)は課題解決に向けた支援を積極的に 拡大しています。G20 メンバー国は、MDBs からの融資拡大に向けた包括的な改革の必要性を訴えました11。そこで、ハイブ リッドキャピタル(HC) が重要な手段として、MDBsからの関心を集めています。

2023年9月、AfDBはAAA格付けのMDBによる初の公開によるHC債のロードショーを行いました。これは、AfDBの融資力を強化 するだけでなく、AfDBだけでなく他のMDBにとっても新たな資金調達の道を切り開くことになります。HC債券はS&PからAA-格付けを受けており、この種の資本商品としては過去最高の格付けの1つとなります。

グリーン及びソーシャルプロジェクトへの融資に対するAfDBの取り組みに沿って、HC債はAfDBのサステナブルボンド枠組みに 基づいて発行されます。HCはAfDBの株主資本を補充することでレバレッジ効果をもたらし、調達1ドルにつき少なくとも2回の 融資を可能にすることを目的としています。レバレッジ部分は、更なる優先無担保サステナブルボンドの発行によって支えられ、 AfDBが引き続き持続可能な資金調達に注力することを保証し、アフリカの自国が決定する貢献(NDCs)の実施に向けて2030年 までに必要となる約26億~28億米ドルという資金不足に対応します12。

ロードショーは9月に発表・実施され、AFDBは米国や欧州の投資家と面談し、その他オンラインも含めると、合計130以上の投 資家と接触しました。反響は高かったものの、2023年10月と11月の不透明な世界経済を踏まえ、実行は2024年に延期されました。

サステナブルハイブリッドキャピタルの取引条件、構造的リスクと緩和策の詳細については、こちらをご参照ください。



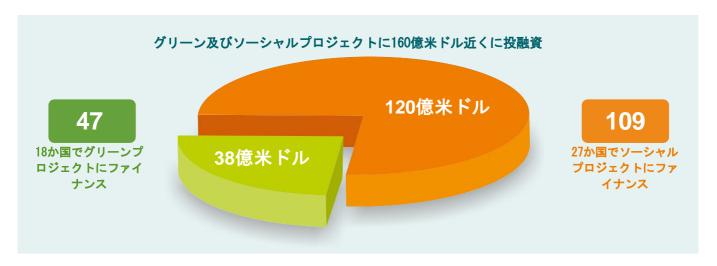
<sup>11</sup> G20 Independent Review of MDBs' Capital Adequacy Frameworks

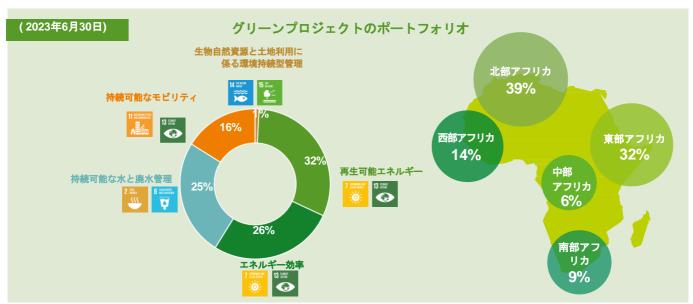
<sup>12</sup> The State of Climate Finance in Africa: Climate Finance Needs of African Countries

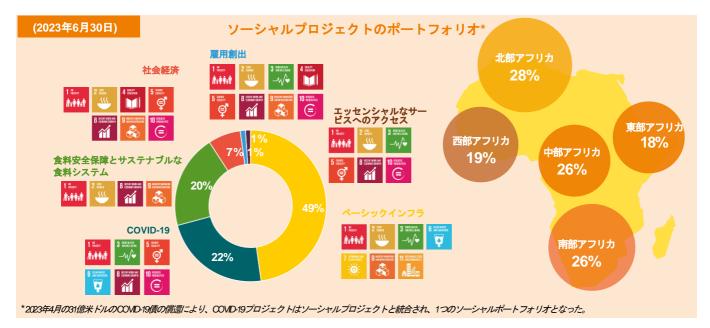




### サステナブルプロジェクト・ポートフォリオ









### サステナブルな債券発行

AfDBは、ESG市場の債券発行において多くの実績を持っています。2013年にはグリーンボンド市場で、2017年はソーシャルボンド市場にて、ソブリン・国際機関・政府系機関(Sovereign, Supranational and Agency: SSA)を発行した最初の機関の1つであり、ESG投資家をグリーンボンドやソーシャルボンド取引に呼び込むことに大きく貢献しました。



AfDBは、市場の状況次第だが、グリーンボンドとソーシャルボンドを年1本以上発行することとしており、投資家に質の高い商品を提供し、投資家の多様化を実現してきました。近年は先駆的なESG取引を開始し、AfDBのESG市場への高いコミットメントを表しています。

#### 2023年のサステナブルボンドの発行実績

15億SEK 5年グリーンポンド 2028年1月償還 1.5億AUD 15年グリーン カンガルー 2038年3月償還

20億NOK 5年グリーンボンド 2028年3月償還 10億SEK 4年グリーンボンド 2027年11月償還 3億GBP 2年ソーシャル ベンチマーク 2025年8月償還





### サステナブルな債券配分

#### 主なグリーンボンド (2023年11月30日時点)

20億SEK グリーンボンド 2024年4月

100%

10億SEK グリーンボンド 2026年4月

100%

15億SEK グリーンボンド 2027年2月

100%

10億SEK グリーンボンド 2027年11月

50%

15億SEK グリーンボンド 2028年1月

100%

20億NOK グリーンボンド 2028年3月

100%

1.4億AUD グリーンカンガルー 2031年12月

100%

1.5億AUD グリーンカンガルー 2038年3月

100%

### 主なソーシャルボンド (2023年11月30日時点)

5億EUR ソーシャルベンチ マーク

2024年11月

100%

3億GBP ソーシャルベンチ マーク 2025年8月

100%

10億NOK ソーシャル ボンド 2026年4月

100%

20億SEK ソーシャル ボンド

2026年9月

100%

6億AUD ソーシャル カンガルー

2026年12月

100%

12.5億EUR ソーシャルベンチ マーク

2028年5月

100%

12.5億EUR ソーシャルベンチ マーク

100%

2029年9月

1.55億AUD ソーシャル カンガルー 2032年10月

100%



### 変革をもたらすサステナブルプロジェクト

### グリーンプロジェクト



セクター:水&廃水管理

承認年: 2021年



#### 資金供給源:



■ AfDB

### 水アクセスプロジェクト(追加融資)

プロジェクトの主な目的はゲルシフ(Guercif)、ザゴラ (Zagora)、アル・ホセイマ(Al Hoceima)、タンジェ (Tangier) 及びベニ・メラル(Béni Mellal )における都市部と農 村部の飲料水へのアクセスを確保することです。今回の追加融資 は、Covid-19パンデミックによるプロジェクトのコスト増(鉄鋼 及び輸送コスト)の影響を受けたことにより、2019年にAfDBが融 資した7,900万ユーロに増額するものです。

対象地域は近年著しく産業化しており、飲料水へのアクセスを強 化・改善すること目的としています。これは、モロッコ政府の水 戦略2040 (Water Strategy 2040) にも合致します。

本プロジェクトは、対象4地域(ゲルシフ、ザゴラ、アル・ホセイ マ、ベニ・メラル)の人口約120万人(うち60%が農村部)と、人 口130万人のタンジェとその周辺のコミュニティに恩恵をもたらす ことが期待されています。本プロジェクトにより、2040年には 330万人以上が飲料水へアクセスできるようになる見込みです。



#### 期待される開発効果14



• 2025年までに都市部と農村部の人口100%が飲 料水にアクセス (うち農村部の人口は60%)



• 250万人の裨益者、2040年までには330万人に増



• 1,500人の臨時雇用、200人の常勤雇用、10万人 の間接雇用を創出



• イブン・バトゥータ(Ibn Battouta) ダムから の放水量を40%削減



・農村部の貧困4.5%削減



乳幼児死亡率(水関連の感染症に占める割合)を 2014年の人口1,000人当たり30人から、2030年に20 人以下に減少



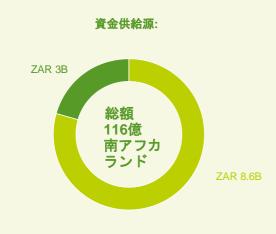
• 2030年までに水関連の感染症罹患率を13%削減 し、10%以下へ





#### セクター: 再生可能エネルギー 承認年: 2018年





### <u>レッドストーン集光型太陽熱発電</u> <u>所(100MW)プロジェクト</u>

レッドストーン集光型太陽熱発電所 (CSP) プロジェクトは、発電容量100MWのCSPを設計・建設・運用、維持管理し、エネルギー供給のギャップを埋め、石炭への依存を減らし、二酸化炭素排出を抑制し、地域住民の雇用を創出し、太陽光発電産業を発展させることが期待されています。

レッドストーンの発電容量は、熱エネルギー貯蔵システムが12時間 (1,200MWh) までに延びることにより増大します。これは太陽光発電所で使用されるバッテリー貯蔵に比べ、比較的経済的なオプションであり、この熱エネルギー貯蔵システムにより、レッドストーンCSPは日射がない場合(日没後や曇りの日)でも12時間フル稼働できるようになります。





### 期待される開発効果15



• 100MWの再生可能エネルギーを導入



年間466GWhの発電



• 年間500,000 MTCO2eの削減/回避



・20万世帯が電力へアクセス



• 建設中に2,178人、稼働中に1,460人の雇用創出

AfDB Others



### ソーシャルプロジェクト

セクター: 農業・食料安全保障

承認年: 2021年





# <u>アグローインダストリアルポールプ</u> ロジェクト

プロジェクトは、マリやブルキナファソの国境に位置する北部の4 地域(ポロ(Poro)、バグエ(Bagoué)、チョロゴ(Tchologo)、 ハンボル(Hambol)) を対象としています。同地域はコートジボ ワールの国土の26%を占め、2018年の人口は225万人であり、農 業が経済活動の60~65%を占めています。同地域は政治的・経済 的危機の影響を強く受けてきました。

本プロジェクトの主な目的は、食料及び栄養安全保障を向上させ、 食料輸入への依存を減らし、競争力のある農産物の輸出を増加さ せることです。具体的には、(i) 民間投資を拡大(特に米、トウモ ロコシ、肉/魚、カシューナッツ、マンゴー、シアバター等の農 作物の加工) (ii) インフラ設備の提供、農業セクターの構造化、 キャパシティビルディングにより農民の市場へのアクセスを促進 (iii) 農業設備、農業サービス等へのアクセス、コミュニティのレジ リエンスを改善することで生産性向上を図ります。









#### 期待される開発効果16



「ロート・直接裨益者は40万人、間接裨益者は120万人 ・ 直接裨益者は40万人、間接裨益者は120万人



• 8,000ヘクタールの土地を灌漑



• 1万1,000人が農業サービスと金融へのアクセス



• 70,000の雇用創出



・800人に研修



• 6つの4,000万m3規模の農業用ダムの建設



💈 • 食料不安定率を10%削減





#### **セクター**: 水・衛生サービス 承認年: 2021年



#### 資金供給源:



## 都市部の水セクター改善とアクレ (AKURE) の給水・衛生プロ

2019年の時点で、国民の58%が安全な水にアクセスできず、ナイ ジェリアの都市部に水道設備は30カ所以上あるものの、いずれも安 定した水の供給する能力がありません。

本プロジェクトの目的は、アクレ市とその周辺地域の住民に安全な 飲料水へのアクセスと衛生設備の支援をすること、水・衛生サービ スの制度的・組織的取り決めを確立すること、水・衛生サービスの 運営における政府の能力を強化することです。







#### 期待される開発効果17



2030年までに水へのアクセスを100% (2019年は58%)



2030年までに衛生設備へのアクセスを100% (2019年 は31%)



130万人の住民が安全な水にアクセス (2019年は10万人)



• 2,000人の臨時雇用と10人の常勤雇用を創出



- 70,000m3/日の水を供給
- 44,000世帯の水道接続(2019年のベースラインは9,500

■ AfDB ■ AGTF ■ Federal and State Government

Others



### インパクトレポート

### グリーンプロジェクト・ポートフォリオの総合インパクトレポート (2023年6月30日)



43 MtCO<sub>2</sub>e

1年間に削減又は回避 されるGHG排出量



1,257 MW

新設又は改修され る再生可能エネル ギー発電容量



1,637,518 MWh

1年間に生産され るエネルギー



820,761 MWh

1年間に節約され るエネルギー



5.19億m<sup>3</sup>

節水・処理される 水の量



1.11億 m<sup>3</sup> 1年間の節水量



1.11 億m³

1年間に処理・再 利用又は回避され る排出量



82.958 ヘクタール

灌漑地



46.824 ヘクタール

荒廃した森林の再 生又は保護



435,773



1,520万人 裨益者18



300万人 雇用創出

注:このインパクトレポートはプロジェクト審査時点における事前評価に基づいているため、これらの成果が最終的に実現す る保証はありません。このインパクトポートは、特定の年または報告期間に達成された実際の成果を提示するものではありません。インパクトは、プロラタ方式でプロジェクトにおけるAfDBの融資割合に比例して算出されます。プロジェクトごとの完全なインパクトレポートは、<u>こちら</u>からダウンロードできます。





### ソーシャルプロジェクト・ポートフォリオの総合インパクトレポート (2023年6月30日)



2億1,600万人 裨益者<sup>19</sup>



**78 MtCO₂e** 1年間に削減又は回避 されるGHG排出量



**897,874人** 雇用創出・ セーフガード



**18,338** 新しい水道メー ターに接続



**407,238** トレーニング の提供



**5 百万人** 水と衛生への アクセス改善



1,635米ドル 裨益者一人当 たりの年収増加額



27,242 ヘクタール 農地の灌漑・開発



670 万トン 年間作物生産量の増 加



25億米ドル 農作物等の輸出の増加



**230万人** 電力へのアクセス



中小零細企業 263,620社 金融へのアクセス支援

注:このインパクトレポートはプロジェクト審査時点における事前評価に基づいているため、これらの成果が最終的に実現する保証はありません。このインパクトポートは、特定の年または報告期間に達成された実際の成果を提示するものではありません。インパクトは、プロラタ方式でプロジェクトにおけるAfDBの融資割合に比例して算出されます。プロジェクトごとの完全なインパクトレポートは、こちらからダウンロードできます。

2023年12月 第9号



### 透明性と開発成果

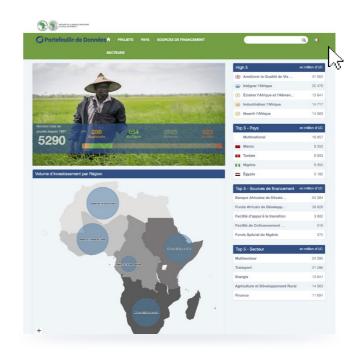
#### 開発効果年次報告

開発効果年次報告(ADER)は、5つの戦略的優先分野「High 5s」について過去1年間のアフリカの開発状況を評価し、AfDBによる貢献を詳述したものです。また、AfDBのポートフォリオを強化し、事業の効果を高めるための継続的取り組みの成果も示しています。2023年版開発効果年次報告書はこちらよりご参照ください。



### データポータル

プロジェクト・データポータルから、1967年以降にAfDBが実施したすべての融資プロジェクトに関する情報にアクセスすることができます。ワンクリックイを操作できるこのユーザーフレンドリーなポータルサイトでは、既製のツールを用いて5,200件以上のプロジェクトをチェックおよび表示することができ、国別、地域別、セクター別、High5s別の情報も俯瞰できます。のポータルサイトは、どこにニーズとリソースのギャップがある可能性があるかをより深く理解するのに役立ちます。プロジェクト・データポータルはこちらからアクセスできます。







#### AfDB サステナブルボンドホームページ





The African Development Bank has been issuing green bonds since 2013 and social bonds since 2017. The new Sustainable Bond Program, established in 2023, combines and updates the previous Green Bond Program and Social Bond Program, enabling the issuance of green bonds, social bonds, and sustainability bonds. These ESG bonds contribute to the fight against climate change and reinforce socioeconomic development in the Bank's Regional Member Countries.

- l サステナブルボンド枠組み
- ! セカンドパーティーオピニオン―ムーディーズ インベスターズサービス
- | サステナブルな債券発行
- I グリーン・ソーシャルボンド取引
- I サステナブルプロジェクト・ポートフォリオ
- 1 インパクトレポート
- I サステナブルボンドニュースレター
- I ハイブリッドキャピタル
- | 気候とグリーン成長の戦略的枠組み
- Ⅰ 気候変動行動計画III (2021-2025)

- | ジェンダー戦略 2021-2025
- | アフリカの質の高い医療インフラ戦略 2021-2030
- I アフリカの雇用可能性と生産性のためのスキルー行動計画 2022-2025
- | 統合セーフガードシステム
- | 気候変動ファイナンスに関するMDB共同報告書
- Ⅰ 気候変動ファイナンス・トラッキング手法
- | 開発効果年次報告
- Ⅰ アフリカ経済見通し
- I 砂漠に電力(Desert-to-Power) イニシアティブ







